

【総 説】

超高齢化地域での多職種による心不全地域連携 ～高齢化率39%の島根県江津市での取り組み

さ さ き	ひろ	ゆき ¹⁾	お だ わ ら	み	ほ ¹⁾	つ	の	かず	み ¹⁾
佐々木	拓	志	小田原	美	穂	津	野	和	美
つ	えだ	しのぶ	ほん	どう	ゆ か り ¹⁾	はら			あゆみ ¹⁾
津	枝	忍	本	藤	由香理	原			歩
か	ど	とも	やま	ぐち	なお	と	まえ	だ	あつ
嘉	戸	智	山	口	直	人 ¹⁾	前	田	篤
		啓 ¹⁾							慶 ¹⁾
なか	ざわ	よし	た	なべ	じゅん	や ²⁾	た	なべ	かず
中	澤	芳	田	邊	淳	也	田	邊	一
		夫 ¹⁾							あき ²⁾
									明

キーワード：心不全ポイント，心不全手帳，心臓リハビリテーション，緩和ケア

要 旨

高齢化が進む社会において，高齢者の心不全は増加し続けている。心不全患者の特徴は地域ごとに環境が異なるため，国内でも均一ではないと考えられる。本稿では高齢化率39.4%の島根県江津市にある当院と多職種による心不全地域連携の取り組みを示し，高齢化率の高い地域での心不全管理体制の構築における課題と展望について考察する。高齢心不全患者において，メディカルプロフェッショナルの積極的関与により，多職種チームでモニタリングを行っていく体制構築が重要である。

はじめに

高齢化が進む社会において，高齢者の心不全は増加し続けている。心不全の罹患者数は全国で120万人を超え，2030年には130万人に達すると推計されている¹⁾。心不全の罹患率は高齢になるに従い増加し²⁾，高齢者の心不全は入退院を繰り返しながら，生活の質が低下していき，予後も悪く，医療経済的にも重大な影響を与えている³⁻⁴⁾。高齢

者では，心臓だけでなく，多くの併存疾患を抱えていることが多く，フレイルやサルコペニア，認知症といった問題も抱えている。こうした状況を背景に，医療機関のみならず地域全体で多職種が連携して心不全の早期発見や重症化予防，退院後の再入院を予防するための体制作りが急務となっている。

島根県の高齢化率(65歳以上)は令和3年(2021年)の時点で34.5%であり，全国平均28.9%よりも5.6ポイント高い⁵⁾。その中で島根県江津市は人口約22,000人で高齢化率は39.4%である。心不全患者の特徴は地域ごとに環境が異なるため，国内でも均一ではないと考えられる。本稿では高齢化

Kazuaki TANABE et al.

1) 島根県済生会江津総合病院

2) 島根大学医学部附属病院循環器内科

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部内科学講座内科学第四